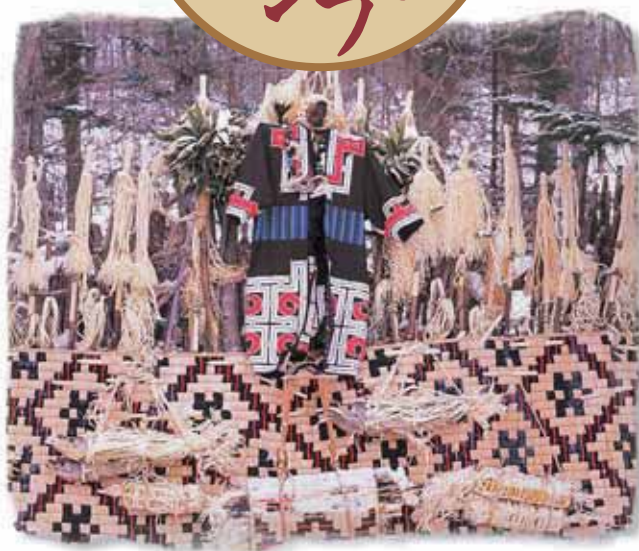


アイヌ生活文化再現マニュアル

熊の霊送り
〔儀礼編〕
イ
オ
マ
ン
テ



財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ生活文化再現マニュアル

イオマンテ

熊の霊送り
【儀礼編】

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

はじめに

| | |
|--------------------------------|----|
| I 準備 | 9 |
| イナウ | 10 |
| 儀礼で使用する道具 | 12 |
| カムイのための道具 | 13 |
| 料理 | 15 |
| II 酒漉し | 17 |
| III 前夜祭 | 19 |
| 1 アペフチカムイに対するカムイノミ | 19 |
| 2 饗宴 | 26 |
| IV 本祭1日目 | 27 |
| 1 イナウをヌサに立てる前のカムイノミ | 28 |
| 2 ヌサの飾り付け | 30 |
| 3 ヘペレシノツ（カムイを遊ばせる） | 31 |
| 4 肉体と霊の分離 | 33 |
| 5 カムイを眠らせた後のカムイノミ | 34 |
| 6 ハルランナ（食べ物撒くよ） | 36 |
| 7 天に花矢を射る | 37 |
| 8 カムイの解体 | 38 |
| 9 毛皮をたたむ | 40 |
| 10 カムイを迎え入れる | 42 |
| 11 カムイを迎え入れてのカムイノミ | 43 |
| 12 饗宴 | 46 |
| V 本祭2日目 | 47 |
| 1 アペフチカムイにカムイの守護を願うカムイノミ | 47 |
| 2 ウンメムケ（頭部の飾り付け） | 49 |
| 3 饗宴 | 52 |
| 4 カムイの旅立ち | 53 |

| | |
|-----------------------------|----|
| Ⅵ 本祭3日目(あと祭り)..... | 55 |
| 1 ヌサの片付け | 55 |
| 2 シヌラツパ(先祖供養) | 56 |
| 3 最後のカムイノミ | 57 |
| おわりに | 60 |
| 参考文献 | 61 |
| イオマンテの道具類を展示・収蔵している施設 | 62 |

— 凡 例 —

- ・本マニュアルの解説編は、映像編と同様、財団法人アイヌ民族博物館が、1989年、1990年及び1994年に実施したイオマンテの映像記録を編集したものです。
- ・儀礼内容の文字化にあたっては、アイヌ語名称を多く使用しました。また、映像編で入れることのできなかつた解説も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる箇所があります。
- ・解説編のカムイノミの文言など、文章の多くは下記の文献から引用しています。
 - ・財団法人アイヌ民族博物館
 - 1990：『イヨマンテ—熊の霊送り—報告書』財団法人アイヌ民族博物館
 - 1991：『イヨマンテ—熊の霊送り—報告書Ⅱ』財団法人アイヌ民族博物館
- ・本マニュアルの映像編は、財団法人アイヌ民族博物館が、1989年、1990年及び1994年に実施したイオマンテの映像記録を編集したもので、特に1994年の記録を多用しています。また、編集の都合上、儀礼の一部(本祭2日日夜の饗宴など)を割愛しています。

はじめに

狩猟採集を生業としていたアイヌは、狩猟の対象など生活の中で深い関わりを持つ動物をカムイ（神）として敬い、大切に取り扱いってきました。

「イオマンテ」とは、一般的に「飼い熊の霊送り儀礼」を指す言葉として知られています。春先のヒグマ猟で、母熊と共に生まれたばかりの子熊を手に入れると、人々はカムイから養育を任された名誉あることと考え、授かった子熊を大切に育てました。

そして1～2年ほど飼育した後は、その魂をカムイモシリ（神々の世界）へ送り帰す盛大な儀礼が、集落をあげて営まれてきたのです。イオマンテは、カムイを敬い、日常生活の中で常にカムイの存在を意識してきた人々が、たくさんのお土産を持たせてカムイ（子熊）の魂を送ることでその再訪を願い、食料の安定供給を求めるといふ、アイヌにとって最も重要な伝統儀礼のひとつです。明治以降は同化政策による生活環境の変化などにより、次第に行われなくなりました。イオマンテは、地域や個人によって儀礼の手順や作法、使われる道具などに違いがあります。

今回のイオマンテのマニュアル化は、1989年及び1990年に日川善次郎翁に祭主になっていただき、若い世代が受け継いでいくことを目的に、同翁の指導にもとづいて財団法人アイヌ民族博物館が実施したイオマンテをマニュアル化したものです。



I 準備

イオマンテ実施にあたっては、約2週間前から酒づくりやイナウを製作するための用材調達を始めます。そして儀礼の当日まで、供物やイナウの製作を続けます。

またイオマンテの儀礼は冬期間に行われるため、供物や料理の材料はそれまでに採取され、食料庫に保存されたものを使用します。(写真1)

男たちはカムイに捧げるイナウなどの用具を作り、女たちは酒づくりやご馳走の準備をします。儀礼には近隣の村からも大勢が集まり、数日かけてカムイをもてなし、その旅立ちを祝ったのです。



写真1

カムイはたくさんのイナウや土産物を持ってカムイモシリへ帰り、アイヌモシリ（人間の世界）が豊かで楽しいことを他の神々に語り聞かせます。そうすると、それを聞いたカムイも、アイヌモシリを訪れてみたいと思うのです。そしてアイヌモシリをたびたび訪れて人間によって何度も送られたカムイは、カムイモシリで格も上がるのです。人間と神々は持ちつ持たれつの関係であり、「送り」を通してその関係が良好に保たれるのです。

イナウ

イオマンテの際、作られるイナウです。



キケチノイエイナウ (削りかけを撚ったイナウ)



サケイナウ (酒のイナウ)



タクサイナウ (清めのイナウ)



キケパッセイナウ
(削りかけを散らしてあるイナウ)



チェホロカケイナウ
(逆さに削ったイナウ)



イヌンバストゥイナウ（酒をしぼる棒のイナウ）



コンカニイナウ（黄金のイナウ）



イナウル・イナウキケ（削りかけのイナウ）



ハシナウ（枝のついたイナウ）



ストゥイナウ（棒イナウ）

儀礼で使用する道具

イオマンテの際、作られる道具です。



キケウシバスイ (削りかけつき 捧酒箸)



シトニツ (団子用の串)



キナラリッ (ゴザを押さえるもの)



カムニツ (カムイの肉を配る串)



ボンベラ (小さなへら)

カムイのための道具

イオマンテで、カムイがカムイモシリへ旅立つ時に使われる道具です。



ヤッケオウニ（カムイをつなく棒）



ヘベトウシ（カムイをつなく綱）



カムイン（カムイを迎え入れた時の座）



オウメウエニ（枕木）



ユッサバオニ
（カムイの頭骨を安置する二又の木）



イヌンパニ（カムイを眠らせるための丸太）



イソノレイ（仕留め矢）



ヘレアイ（花矢）



ク（弓）



ケトッシ（お土産を入れる入れ物）

料理

イオマンテの時、必ず作られる料理の一例です。



トノト（多くのカムイに捧げる御神酒）



シラリ（酒粕）



シト（団子）
白は米粉、黄色はイナキビ粉



チサッスイェ（いなきびご飯）



スケトウダラの塩煮



ポツポツ（カボチャと豆の混ぜ煮）



チホロラタシケツ（筋子とジャガイモの混ぜ合わせ）



シケレヘキナラタシケツ（ヒメザゼンソウのおひたし）



カムイオハウ（熊肉の汁）
※儀礼の進行に伴って作る料理。解体を終えたカムイの肉を使う。

※作り方の詳細は、「アイヌ生活文化再現マニュアル・イオマンテ・料理編」、「アイヌ生活文化再現マニュアル・イオマンテ・道具編」で紹介しています。

II 酒漉し

白老地方のチセ（家）は、西に入口があり、東にロルンプヤラ（神窓）があります。

ロルンプヤラは神々が入り出る神聖な窓で、普段は覗き込むことさえ禁じられています。そしてロルンプヤラからアペオイ（炉）までの間はロルンソと呼ばれ、神々の通り道と考えられています。

室内は入口からロルンプヤラに向かって、アペオイの左側の座をシソといい、右側の座をハラキソといいます。普段、シソは主人夫婦の座になり、ハラキソは客座になります。ロルンプヤラ側をアペエトクといいます。

仕込んだ酒は、南東位置に置かれています。（図1）

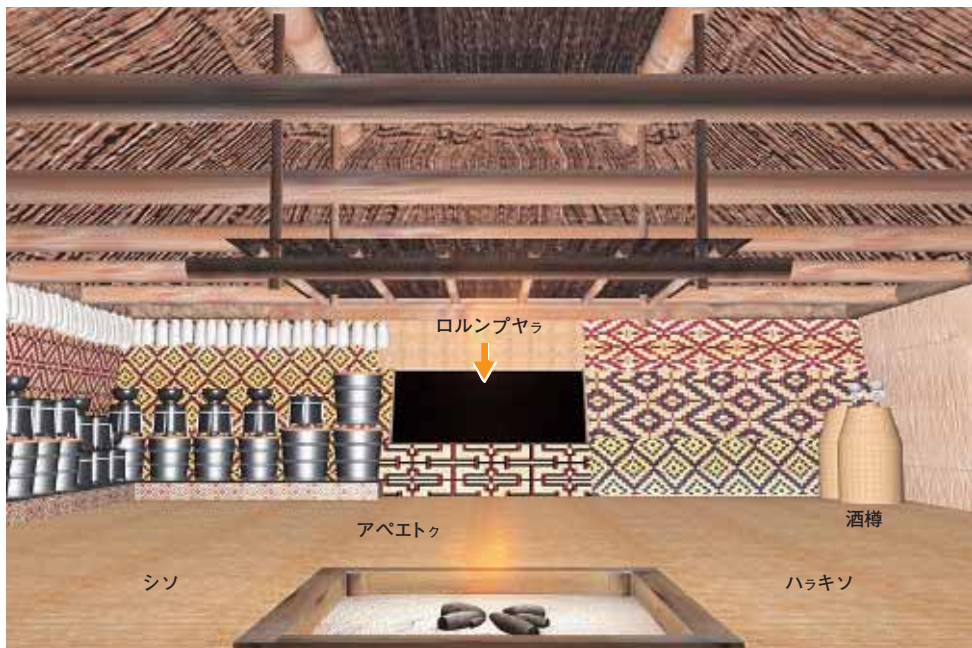


図1

仕込まれた酒は、イオマンテの前日に漉すのが習わしです。酒漉しの際、シソのロールプヤラに近い場所に、チェホロカケテ（逆さに削ったイナウ）を立てます。

儀礼を執り行う祭主の座は、このチェホロカケテに近い場所になります。（図2）



図2

酒漉しの前に祈りが捧げられ、酒漉しが始まります。

※酒漉しのマニュアルは、「アイヌ生活文化再現マニュアル イオマンテ料理編」に収録しています。

III

前夜祭

1 アペフチカムイに対するカムイノミ

前夜祭はアペフチカムイ（火の神）への祈りから始まります。

- ① 会場となるチセにキナ（ゴザ）を敷き、イナウや祈りに必要な用具を準備します。
アペオイの四隅にはイヌンパストウイナウが1本ずつ立てられ、チェホロカケブが祭主の座近くのアペオイの隅に立てられます。
アペエトクには、チタラペ（文様入りのゴザ）が敷かれ、その上にシラリの入ったパッチ、キケパラセイナウとキケチノイエイナウが各1本、チェホロカケブ1本を載せたオッチケ（膳）、トゥキとパスイを載せたオッチケが用意され、その後方に漉した酒が入った樽が置かれます。（写真2）



写真2

- ② イヨマレクル（酒を注ぐ人、女性が行う）が酒樽から酒をエトウヌブに移し（写真3）、これを持って祭主の所に行き、トゥキに酒を注ぎます。
続いてシソ側に座る人に注ぎ、次にハラキソ側の人に注ぎます。



写真3

- ③ 祭主がシラリをチェホロカケブとイヌンパストウイナウの頭に載せ、同じく対面に座る男性がイヌンパストウイナウにシラリを載せます。

アペフチカムイにパスイでシラリを捧げ、良い酒ができたことを報告します。(写真4)



写真4

- ④ 祭主はトゥキを持ち、キケウシパスイの先に酒をつけ、アペフチカムイに捧げながら祈ります。他の男性たちも同様にイクパスイに酒をつけ、上座に置かれたイナウなどに捧げながら祈ります。

- ⑤ 祈りの途中、指名された男性がチセコロカムイ（家を司る神）、イレスプンキヨカムイ（家族を育て見守る神）、イソプンキヨカムイ（漁獵を見守る神）のところに行って祈ります。

別の男性がアペオイに立てられたイヌンパストウイナウを2本持ち、アパサムシカムイ（戸口の神）に捧げます。他の人は、祭主から命じられた重要な神々にその場で祈りを捧げます。

- ⑥ 祈りが終わると、男性2人が外に出てロルンプヤラの前にいきます。

ロルンプヤラからキケパラセイナウ、キケチノイエイナウ、イクパスイ、酒の入ったトゥキ各1個をロルンプヤラから出して、外の男性に手渡します。(写真5)



写真5

- ⑦ 2人はオンカミしながら受け取り、ヘペレセツ（子熊の檻）へ行き、上部に上がります。

ヘペレセツの横木に向かって、左側にキケパラセイナウ、右側にキケチノイエイナウを立てます。(写真6)



写真6

⑧ チセの中では、カムイノミが続けられています。

男性がイナウキケを手に取り、ロールンピヤラ上部の両端、アペオイの中央部など、主だったところに結び付けていきます。(写真7)



写真7

⑨ ヘペレセツにイナウをつけた男性2人もチセに戻り、全員が座につくと、古老たちに酒が注がれます。

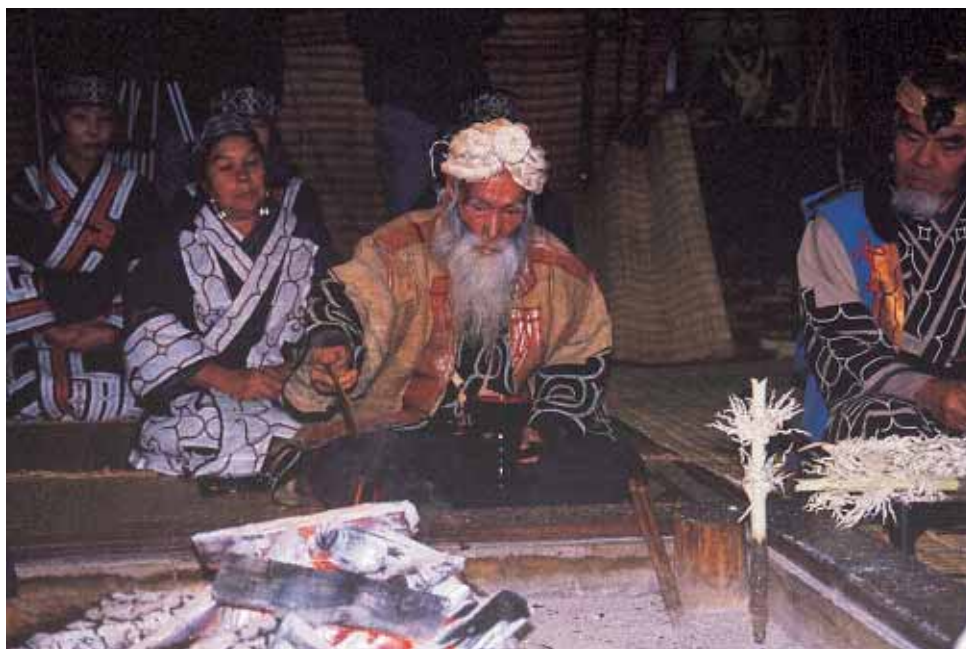
古老たちはその酒をいただき、それから祭主の右手に並ぶ女性に渡します。女性たちはアペフチカムイや炉鉤につけられたイナウなどに酒を捧げ、自分たちもいただきます。(写真8)



写真8

祭主が、アベフチカムイに「明日、育てた熊をカムイモシリへお帰しします。儀礼が無事に執り行われるよう見守ってほしい」という旨の言葉を捧げます。

※1989年、白老で実施されたイオマンテで日川善次郎翁が捧げたカムイノミです。



イレス カムイ
ウ パセ カムイ
アペ フチ エカシ
ヌマン オロ ワノ
ウ ポン ノ ポン ノ
クイタク コロカ
タン ト アナクネ
ニシバ トウラノ
クカラク ウタラ トウラノ
タパン ペ ネノ
ウ パセ カムイ
ウ コッチャケ タ

育ての神
重い神
火の媼神、翁神よ
昨日から
少しずつ
私は申し上げていますが
今日は
立派な方々と
私の甥たちとともに(注1)
このように
重い神の
おん前に

クイタク キ ナ
ウ ピリカ アヌ
アキ パ キ ワ
タネ オロ ワノ
ニサッタ パクノ
アキチ イノミ
イノミ ネ ヤッカ
ウ ネプ ネ ヤッカ
カムイ ウタリ
ウ ピリカ ヌカラ
アキ パ キ ワ
アプンノ カネ
ホピタ クニ
インカラアン クニ
アタナン アイヌ
アイヌ ネ マヌ プ
クネ プ ネ コロカ
タパン ペ ネノ
クイエ パ キ ナ
ネ ヒ サマ タ
タネ アナクネ
ペウレ クル ウタラ パテク
ウ ネ プ ネ クス
ウ ネプ イノミ
オケレパ ヤク
ウ イエ ソモ キ パ ヤッカ
エタカスレ
ケウトウム オッタ アナクネ
カムイ セコロ
ウ ヤイヌ プ アネ キ ナ
ネ ヒ アナクネ

申し上げますから
よく聞いて
下さって
今から
明日まで
私たちのする祈り
祈りでも
何でも
神々が
よく見守って
下さって
無事に
終わるように
見守ってくださるように (注2)
ただの人間
人間というもので
私はありますが
このように
申し上げるのです。
さらにまた
今や
若い者ばかり
なので
何の祈りが
終わったとも
言わないでしょうが (注3)
なおさら
心の中では
神のことを
考えているのです。
そのことは

カムイ アナクネ
ウ ヌブル クニ プ
カムイ ネ クス
クイエ ソモ キ ヤッカ
アエラムアン
ウ キ ナンコロ コロカ
ニサッタ アナク
アレス エペレ
カムイ ウコサンニヨ
アキ パ キ ワ
アシリ カムイ ネ
アラパ クス
ウ ピリカ ノ
ウ ピリカ モコロ
ウ キ パ キ ワ
カムイ モシリ
カムイ コタン タ
アラパ クニ
タヌクラン オロ ワノ
カムイ オッタ
アタナン クン ペ
クネ パ コロカ
クイエ パ キ ナ
ウ ネン ポカイキ
クイエ ア イタク
ウ ハイタ ヤッカ
ウ ピリカ ノ
チェエノマレ
アンキ パ キ ワ
ウ ピリカ アヌ
アキ パ クニ

神というものは
力のあるものが
神であるので
私が申さなくとも
お解りで
ございましょうが
明日は
我々の育てた子熊が
神々がお互い相談を
なさって
新しい神として
行かれるので
無事に
よい眠りに (注4)
ついて
神の国
神の村へ
行くように
今晚から
神のもとに
つまらないもので
私はありますが
申し上げますから
なんとかして
私の申した言葉が
足りなくとも
よく
まとめて
下さって
よく聞いて
下さるように

クイエ パ キ コロ
(以下「節」なし)
タパン ペ ネノ
クイエ パ クス
ニサッタアン アナク
エタカスレ
ウ パセ イノミ
アキ パ クス
ネプ ネ ヤッカ
アプンノ カネ
ウ ピリカ ノ
ホピタ クニ
カムイ ウタリ
ウ ピリカ ヌカラ
アンキ パ ワ
エンコレ クニ
クイエ パ キ コロ
クイタク オケレ
クイエ ハウエ ネ

私は申しながら

このように
私は申しますので
明日になったら
いっそう
重い祈りを
しますので
何事も
安らかに
無事に
終わるように
神々が
よく見守って
くださる
ように
申し上げて
私は言葉を取める
のでございます。

(注1) [ウカク ウタラ] ……翁の親戚に限らず、白老の人なども含めて、若い人全体を指すとのことである。

(注2) [インカアン クニ] ……実際の録音では【アヌカアン クニ】のように聞こえる。

(注3) 何の祈りが終わったとも言わないでしょうが、言葉の全くできない若い者がいるのでこのように言っておかなければならないとのことである。ある程度できる人がいるときには、

[ウトゥル ウトゥル ウ ハイタ イノミ ネヤッカ キ ナンコロ クス]

「ところどころ足りない祈りでもするでしょうから」とか

[ウトゥル ウトゥル ウ ハイタ ヤッカ イエ バ ナンコロ クス ピリカ ノ アヌ ナンコロ ナ]

「ところどころ足りなくても言うでしょうからよく聞いてください」というふうには言えよいうである。

(注4) [ピリカ モコロ] ……【モコロ】「眠る」はここでは熊が「死ぬ」ことを指す。

2 饗宴

カムイノミが終わるとチセの中では飲食がともになされ、踊りや歌、語り物が演じられます。

人間が楽しむとともに旅立つカムイもまた、これを見て楽しんでいる、と考えられているのです。

饗宴は深夜まで続きます。



ウボホ（座り歌）



クーリムセ（弓の舞）



イヨマンテリムセ（イオマンテの踊り）

IV 本祭 1 日目

儀礼が始まる前にまず室内が整えられます。

アペオイの端から、ロルンプヤラにかけて、チタラペを敷きます。アペオイには、6本のチェホロカケブが立てられます。両端の2本は、家の入口にさしてアパサムシカムイに捧げます。4本はアペフチカムイに捧げられるもので、後に燃やされます。

また、シソの上手にはチセコロイナウが立てられます。このイナウはイオマンテが終了するとイヨイキリの上方の壁に安置されます。

チセコロイナウの右には、トゥキとパスイが乗ったオッチケ、その隣にシラリが用意されます。(図3)



図3

朝、全員が席につき女性により酒が注がれたあと、アペフチカムイに酒を捧げ、カムイノミを行います。ヌサに立てるすべての新しいイナウは、上座（ロルンプヤラの下）に置かれます。

1 イナウをヌサに立てる前のカムイノミ

イナウをヌサ（祭壇）に立てる前に、アペフチカムイに見守ってほしい旨をお願いするカムイノミが行われます。祭主と古老に酒がつがれ、アペフチカムイに酒を捧げます。

次に紹介するのは、1989年、白老で行われたイオマンテで、日川善次郎翁が捧げた祈りの言葉です。

| | |
|---------------|-------------|
| イレス カムイ | 育ての神 |
| ウ パセ カムイ | 重い神よ |
| ヌマン オロ ワノ | 昨日から |
| アキ イノミ | 行っている祈りで |
| ウ ネ プ ネ コロカ | ございますが |
| タネ オロ ワノ | 今から |
| ヌササン オッタ | 祭壇へ |
| イナウサンケ | イナウを出し |
| アキ パ クス | ますので |
| ペウレ クル ウタラ | 若い者 |
| ウタラ パテク | たちばかりで |
| ウ ネ プ ネ クス | ございますので |
| ウ ポン ノ ポン ノ | 少しずつ |
| ウ ハイタ ヤッカ | 至らなくとも |
| ネ ヒ アナクネ | それは |
| カムイ ウタリ | 神々が |
| ウ ペウレ セコロ | 彼らは若いのだと |
| ウ ヤイヌ トウラ | お考えになって |
| イテキ クナク | 決して |
| イルシカアン ソモ キ ノ | 怒らずに |
| ウ ピリカ ノ ポ | よく |
| ペウレ クル ウタリ | 若い者たちを |
| ピリカ ノ ポ | よく（注1） |
| アヌカラ キ クニ | 見守ってくださるように |

クイエ パ キ ナ
タネ オロ ワノ
アキ イノミ
ウ ネプ ネ コロカ
タパン ペ ネノ
イナウ イノミ
アキ パ クス
タパン ペ ネノ
クイエ パ クス
タネ オロ ワノ
ペウレ クル ウタリ
イナウサンケ キ パ クス
ピリカ ヌカラ
アンキ パ クニ
クイエ パ キ ナ

私は申し上げます。
これから
行う祈りで
ございますが
このように
イナウの祈りを
致しますので
このように
申し上げますので
今から
若者たちが
イナウを出すので
よく見守って
下さるように
私は申し上げます。

(注1) 【ピリカ ノ ホ】 ……実際の録音では【ピリカ ネツキ】「よい働き」とも聞こえるが、翁によれば【ピリカ ノ ホ】
というべきであるとのことである。

2 ヌサの飾り付け

イオマンテ用にヌサを作ります。

用意したイナウを、ロルンプヤラから出します。イナウを渡す者はオンカミしてからイナウを差し出し、受け取る者も、オンカミをして受け取ります。(写真13)



写真13

イナウを立て、ヌサにチタラペを立てかけ、キナラリブをさしこみます。針で縫うように差し込んで止めます。(写真14)

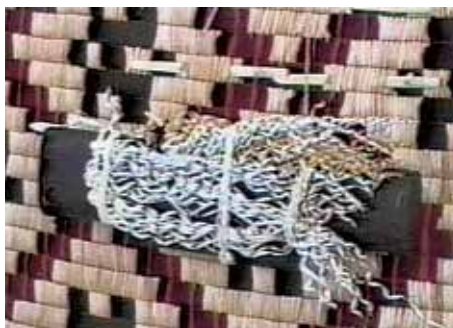


写真14

新しいイナウやお土産で飾られた、イオマンテのヌサが完成しました。(写真15)



写真15

イナウを立てた男性は、自分が立てたイナウに酒を捧げ、自分もいただきます。

3 ヘペレシノツ（カムイを遊ばせる）

ブドウヅルやシナの皮を撚った太いトウシ（綱）を2本用意します。

男性がヘペレセツに上がりカムイの胴体と首にトウシを結びつけます。結び方は、トウシを投げ輪のような形にし、カムイの前足を通して脇の下から首にくぐらせます。もう1本も同様にかけて両側から引っばります。

タクサを持った若者が、前方左に1名、前方右に1人、後方に1人、3人が取り囲むようにして、タクサをゆっくり上下に降りながらカムイをヤシケオクニへと先導します。（写真16）



写真16

こうしてカムイを引いて歩くことを、ヘペレシノツ（カムイを遊ばせる、カムイを踊らせる）といいます。

タクサを体や顔にあてられたカムイは、体をふったりゆすったりします。これを《カムイがやがてすぐにカムイモシリに行けることの喜びを表している》と、解釈します。

女性たちが手拍子をとりながら「ホイヤーホッ、ホイヤーホッ」と掛け声を発します。（写真17）



写真17

カムイをヤシケオクニに繋ぎます。

ヤシケオクニに繋ぐトウシは、後方のトウシを使います。女性たちがカムイを取り囲み、リムセ（輪踊り）を踊ります。

輪の内側には、ヤシケオクニに繋がれたカムイ、前方の2本のトウシを持った男性、タクサを持った男性がいます。(写真18)



写真18

やがて、カムイとヤシケオクニを繋いでいたトウシを解き、会場を歩かせます。

ロールプヤラの下を通過して、ポンヌサの横に座っている古老の手前まで行き、そこで方向を変え、ヌサの前を通過してヤシケオクニまで行きます。このルートを何度か回ります。(写真19)



写真19

女性たちの掛け声はウポポ（歌）に変わります。(写真20)



写真20

3回目にカムイが古老の近くに来た時、古老たちはカムイにヘペレイ（花矢）を射るのです。

これはカムイにヘペレイを贈るという意味があります。カムイはヘペレイで射られ、ますます興奮します。アイヌの考え方では《カムイが親元に帰ることの喜びを表している》と解釈します。

4 肉体と霊の分離

カムイを遊ばせた後、その肉体と霊を分離します。

ヘペレイを射られ興奮したカムイは、だんだんと疲れて行動が鈍くなります。

頃合いを見計らって、ヌサの前にトドマツの枝葉を敷いて、その上にイヌンパニを置きます。カムイをうつぶせに寝かせ、首をイヌンパニの上ののせ、両手も前方にのばしてイヌンパニの上に置きます。

あごを少し上げチェホロカケブを1本口にくわえさせます。

そしてイヌンパニのもう一方の木を首の上に渡し、男性たちが左右3人ずつのって首をしめ、絶命させます。カムイの息の根が止まり永眠につく、これで「熊」という肉体から霊が分離されると解釈します。(写真21)



写真21

カムイに向かって祈りを行います。

トゥキが古老に渡され、エトヌブで酒が注がれます。他の男性たちにもトゥキとイクパスイが渡され、酒が注がれます。イクパスイでカムイの口元に2～3回ほど酒を捧げて祈りの言葉をのべます。(写真22)



写真22

5 カムイを眠らせた後のカムイノミ

| | |
|--------------|-----------------|
| アレス エペレ | 我々が育てた子熊よ |
| タパン ペ ネノ | このように |
| カムイ ウコサンニヨ | 神々が計らって |
| アキ パ キ ワ | 下さって |
| タン テ オロ ワノ | これから |
| カムイ コタン | 神の村 |
| カムイ モシリ | 神の国へ |
| エアラパ キ ワ | あなたは行って |
| オナ テクサマ | 父のもと |
| ウヌ テクサム | 母のもと |
| テクサマ タ | ひざもとに |
| ハル トウラノ | 食べ物と一緒に |
| トノト トウラ | 酒と一緒に |
| ウ ピリカ ヒ ネ | うまく |
| エコロ パ キ ワ | あなたは持って |
| エアラパ ナンコロ クス | 行くだろうから |
| ウ ピリカ ノ ポ | 無事に |
| タパン コタン | この村 |
| コタン オッタ | 村に |
| タネ テ パクノ | 今まで |
| エアン ア コロカ | あなたは暮らしていたが(注1) |
| オナ オッタ | 父のもとへ |
| ウヌ オッタ | 母のもとへ |
| エエパ キ コロ | あなたが着いて |
| エアラパ クニ | 行くように |
| ウ パセ カムイ | 重い神 |
| カムイ オロ ワノ | 神から |
| ウ ソンコ アニ | ことづけをして |
| アンキ プ ネ キ ナ | 下さるでしょうから |

| | |
|--------------|---------------|
| アプンノ カネ | 安らかに |
| イテキ クナッ | 決して |
| イルシカ ケウトウム | 怒りの気持ち |
| シアンテ ケウトウム | 憤りの気持ちを |
| アコロ ソモ キ ノ | 持たれずに (注2) |
| アプンノ カネ | 無事に |
| (以下「節」なし) | |
| アラパアン クニ | 行かれるように |
| タパン ペ ネノ | このように |
| クイエ パ キ ワ | 私は申し上げて |
| チセ オッタ ネ ヤッカ | 家の中からであっても |
| ウ パセ イノミ | 重い祈りを |
| チキ パ クス | 致しますので |
| タン ト アプンノ カネ | 今日は無事に |
| アラパアン クニ | 行かれるように |
| クイエ パ キ コロ | 申し上げながら |
| タネ オロ ワノ | 今から |
| ?? ネ マヌ プ | ??というものを |
| ?? ナンコンナ | ??するでしょう。(注3) |

(注1) [エアン ア コロカ] ……実際の録音はよく聞き取れないが、[エチマキヒ] のように聞こえる。翁によれば [エアン ア コロカ] 「あなたは・いた・けれど」というべきだということである。

(注2) [アコロ ソモ キ ノ] ……送った熊に対して、ここまでは二人称 [エ] 「お前」で呼びかけていたが、ここからは4人称(不定人称) [ア] 「あなたさま」を用いている。

(注3) この2行は残念ながら録音が不明瞭で聞き取れない。

6 ハルランナ（食べ物を撒くよ）

カムイの前でカムイノミが終わるとハルランナです。

祭主がパッチから団子とクルミを取り、座ったままカムイの両側と後方に撒きます。これらはカムイモシリに持っていく土産となります。

若者2人が団子をいっぱい持って家の屋根に登り、家の東側（ヌサ側）に団子を撒きます。

この儀礼に参加した人たちは手を上げ、歓声を上げながら拾いあいます。

ハルランナはその場に居合わせた人たちが楽しく拾いあうことが大切であるとされています。それは「人間の喜びは神も喜び、楽しみとするものだ」とされているからです。

ハルランナは《アイヌのコタンが豊かであること、このコタンへ来ると満足いくもてなしがされますよ》ということを神へ見せつけるアピールの意味もあります。(写真23)



写真23

神と人間は不離密接な関係にあります。それゆえ、神に喜んでもらうためにも、神々全員にそれが分配されるためにも、人間は楽しく競って拾いあわなくてはならない、という考え方なのです。(写真24)



写真24

7 天に花矢を射る

団子やクルミが撒かれたあと、1人の若者が弓を持ち、東の空に向かって、へペレイを射ます。

アイヌモシリで行っている、めでたい儀礼をカムイモシリに知らせるためです。(写真25)



写真25

8 カムイの解体

次にカムイを解体します。この解体をイリ、あるいはカムイメマンカといい、カムイの着物を脱がせるという意味があります。イリの方法・手順は日川善次郎翁の指導によります。

- ① 最初に陰部のやや上にマキリを入れ、胸の上までまっすぐに切ります。(図4)



図4

- ② 胸の上付近から左前足首まで切ります。同じく胸の上から右前足首まで切ります。(図5)



図5

- ③ 最初にマキリを入れた位置から左後ろ足首まで、次に右後ろ足首まで切っていきます。(図6)

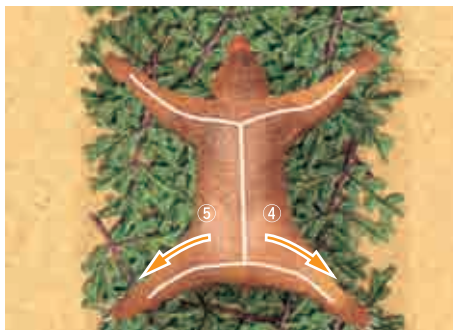


図6

- ④ 最初にマキリを入れた位置から再びマキリを入れ、片手で持ち上げるようにしながら、もう一方の手でマキリを持ち、上半身の皮を剥ぎ取っていきます。(写真26)



写真26

- ⑤ 次に足の皮を剥ぎ取っていきます。足の裏部分（地面を踏むところ）を反時計周りにマキリを入れて切り取ります。左前足、右前足、左後ろ足、右後ろ足の順で行います。(図7)



図7

- ⑥ 頭部を胴体から切り離します。あごの付け根を左右の端から中央にかけてマキリを入れます。こうして皮が切り離されました。(図8)



図8

9 毛皮をたたむ

イリが終わると、毛皮をたたむ作業に入ります。

左右から皮の端をつかんで引っ張り、いっぱいを広げ、表面についている血を拭きとります。毛皮をたたむ順序は決められており、以下のは日川善次郎翁の指導によるものです。

- ① 左側の足を胴体の皮の端に合わせて内側に折ります。(図9)



図9

- ② 次に右側の足を同じように折ります。(図10)



図10

- ③ 胴体を左側から内側に縦に折ります。(図11)



図11

④ 同じく右側も折ります。(図12)



図12

⑤ 下の方を起こして半分になるように折ります。(図13)



図13

⑥ さらにもう一回折ります。(図14)



図14

⑦ 最後に頭を起こしてたたまれた胴体の毛皮に載せます。(図15)



図15

10 カムイを迎え入れる

解体された頭部、たたまれた毛皮、胴体や足の肉、骨、内臓のすべてがロルンプヤラを通してチセの中に入れられます。

チセの中では、女性たちが「ホイヤーホッ、ホイヤーホッ」とかけ声をかけて迎えます。

カムイは客人となってチセの中に招き入れられます。

招かれたカムイの頭部をアペオイの方に向け、飾り付けをします。

雌の場合は、頭からシトキ（飾り金具つきの玉飾り）、耳にはニンカリ（耳飾り）を飾り、雄の場合は、エムシを置いて飾り付けます。（写真27）



写真27

飾られたカムイに酒が注がれます。

上座に敷かれたチタラベにシト、スケトウダラの塩煮、菓子類にサッチェブ、果物、チサッスイェブやシケレペラタシケブなどが供えられます。

供物がならべられたチセの内部です。（写真28）



写真28

カムイが安置された場に古老が座り、カムイノミが行われます。（写真29）



写真29

次いで、男性全員でカムイノミを行います。

11 カムイを迎え入れてのカムイノミ

| | |
|--------------|-----------|
| イレス カムイ | 育ての神 |
| アペ フチ エカシ | 火の媪神、翁神 |
| ウ パセ カムイ | 重い神よ |
| ヌマン オロ ワノ | 昨日から |
| オトゥ スイ レ スイ | 何度も |
| クイタッ キ ワ | 私が申し上げて |
| アエラムアン パ パ | お解りで |
| アキ ナンコロ コロカ | ございましょうが |
| タン ト アナクネ | 今日は |
| タパン シラオイ コタン | この白老の村 |
| ウ ニシパ コタン タ | 豊かな村で |
| アレス エペレ | 育てられた子熊が |
| タン ト アナクネ | 今日 |
| スマウネ キ ワ | 休まれて |
| タネ オロ ワノ | これから |
| カムイ モシリ | 神の国 |
| カムイ コタン | 神の村 |
| オアラパ クス | へ行かれるので |
| タパン ペ ネノ | このように |
| ニシパ トウラノ | 立派な方々とともに |
| クカラク トウラノ | 私の甥たちとともに |
| タパン イノミ | このような祈りを |
| チキ パ キ ナ | するのです。 |
| クヌ克蘭 アナクネ | 今晚は |
| カムイ ウタリ | 神々は |
| イテキ クナク | 決して |
| アエランペカママ | うるさいと |
| ソモ キ ノ | 思わずに |
| イタク ネ マヌ プ | 言葉というものを |

ウ ピリカ アヌ
アキ パ キ ワ
ウ ネブ ネ ヤッカ
アプンノ カネ
ウ ピリカ ノ
ホピタ クニ
ウ パセ カムイ
カムイ ウタリ
ヌカラ ソモ キ ヤクン
アイヌ アナクネ
ウ ネブ ネ ヤッカ
エランペウテク ペ
アイヌ ネ キ ナ
カムイ ウタリ
ネ ヒ アナクネ
ウ ピリカ ノ
アエラムアン
アンキ ナンコロ コロカ
オトゥ スイ レ スイ
カムイ オッタ
タパン ペ ネノ
クイエ パ キ コロ
ウコサンニヨ
アンキ パ クニ
クイエ パ キ ナ
タネ オロ ワノ
アキ イノミ
ウ ネブ ネ ヤッカ
アプンノ カネ
ホピタ ヤクン
カムイ オカ クス

よく聞いて
下さって
何事も
安らかに
無事に
終わるように
重い神
神々が
見守って下さらないと
人間というものは
何も
解らないのが
人間なのですから
神々は
そのことは
よく
解って
おいででしょうが
何度も
神のもとへ
このように
申し上げながら
相談をして
下さるように
私は申すのです。
これから
行う祈りが
何事も
無事に
終わったなら
神がいればこそ

ウ ネヅ ネ ヤツカ
アプンノ カネ
ホピタ セコロ
ニシバ ネ ヤツカ
クカラク ウタンネ ヤツカ
ウイエ パ ナンコロ
ウヌ ナンコロ クス
(以下「節」なし)
カムイ ウタリ
クイエ ア イタク
ウ ハイタ ヤツカ
カムイ アナクネ
ウ ヌプル クニ プ
カムイ ネ クス
ピリカ ノ ポ
チェエノマレ
アキ パ キ ワ
アヌ パ クニ
クイエ パ キ ナンコロ ナ

何事も
無事に
終わるのだと
立派な方々も
私の甥たちも
言いあい
聞きあうでしょうから (注1)

神々よ
私の申した言葉が
足りなくとも
神というものは
力のあるものが
神なので
よく
まとめて
下さって
聞いて下さるように
私は申し上げるのです。

(注1) [ウヌ ナンコロ クス] ……実際の録音では [ウエイヌ ナンコロ クス] のようにも聞こえる。

12 饗宴

こうして1日目の儀礼が終了すると、若者たちが用具類を片付けた後、集まった人々に食べ物や飲み物が振舞われ、饗宴がはじまります。



ここでは、ウポポ（座り歌）、イヨマンテリムセ（熊送りの踊り）、ヤイサマネナ（即興歌）、ハンチカプリムセ（水鳥の舞）、イフムケ（子守唄）、イヨハイオチシ（哀傷歌）、ユカラ（英雄叙事詩）などが披露され、人間が楽しむとともに旅立つカムイもまた、これを見て楽しんでいる、と考えられているのです。

こうした饗宴は深夜まで続きます。

V

本祭 2 日目

白老のイオマンテは3日かけて行われ、カムイをカムイモシリへ送り帰します。本祭2日目は、朝、男性たちがアペオイの上手に並び、カムイの守護を願う祈りが行われます。

1 アペフチカムイにカムイの守護を願うカムイノミ

| | |
|--------------|-----------|
| イレス カムイ | 育ての神 |
| タパン ペ ネノ | このように |
| ヌマン オロ ワノ | 昨日より |
| アキ??? | |
| アレス エペレ | 我々の育てた子熊が |
| ピリカ ノ ポ | 無事に |
| シニ パ キ ワ | 休んで |
| タント ネ パクノ | 今日まで |
| チセコロカムイ | 家の神の |
| ウ コツチャケ タ | 前で |
| シニ パ キ コロカ | 休みましたが |
| タネ オロ ワノ | 今から |
| テ タ シラオイ コタン | この白老の村 |
| コタン プリ アリ | 村の流儀で |
| ウ ネブ ネ ヤッカ | 何事も |
| アキ プ ネ キ ナ | とりおこないます。 |
| タネ オロ ワノ | 今から |
| ベウレ クル ウタリ | 若い者たちが |
| カムイ ハル | 神の肉を |
| カラカラ キ コロカ | お作りいたしますが |
| ネ パ ネ コロカ | ではありませんが |
| タネ アナクネ | 今は |

シサム イレンカ
トノ イレンカ
ユヅケ ネ クス
テエタ ネノ
イキ ソモ キ パ ヤッカ
ネ ヒ アナクネ
カムイ ウタリ
ピリカ ヌカラ
アキ パ キ コロ
ウ ハイタ ヤッカ
ネ ヒ アナクネ
ヌペ ボ カネ？
(以下「節」なし)
ペウレ クル ウタリ
ウ キ プ ネ クス
ウ ハイタ ヤッカ
イテキ クナク
タアニ ウタラ ウ ハイタ セコロ
アイエ ソモ キ ノ
ペウレ クル ウタリ
イキ パ クニ
ウ ピリカ ヌカラ
アンキ パ キ クニ
オリパク トウラ
クネ パ コロカ
クイタク ハウエ ネ クス
カムイ ウタリ
ピリカ ヌカラ
アンキ ワ イコロパレ ナンコンナ

シサムの掟
和人の法律が
やかましいので
普通りには
まいりませんが
それは
神々が
よく見守り
くだされて
足りないところがありましても
それは

若い者たちの
することですから
足りないところがありましても
決して
この者たちはやり方が悪いなどと
おっしゃらずに
若い者たちが
できるように
よく見守り
くださるように
恐れながら
ではありますが
申し上げる次第ですので
神々よ
よくお見守り
なさってください。

2 ウンメムケ（頭部の飾り付け）

次に前日に迎え入れた頭部を解体し、飾り付けを行います。これをウンメムケといいます。イオマンテで最も重要な儀礼の一つであり、頭の拵えは経験や人望のある古老が行います。

- ① ウンメムケに関わる男性がカムイの前でカムイノミを行い、飾り物を外します。

ロールソのイヨイキリ側にキナを敷き、そこで解体が行われます。(写真30)



写真30

- ② 口の周りや耳を頭骨に残すように皮を剥ぎます。(写真31)



写真31

- ③ 頭骨をひっくり返し、喉の部分から舌の付け根に刃物を入れ、舌を切り離し容器に移します。

- ④ 耳の近くにある筋を残して肉を剥ぎ取ります。この筋は後で耳を立てる時に必要となります。(図16)



図16

⑤ 両目を取り出し、左右が解るように容器に移します。

⑥ 頭骨の右側後方をイナウルの付いたセツパ（鏝）で叩き割り、約5 cmほどの穴を開けます。

カムイポンペラで脳を取り出します。砕けた骨を容器に取り、脳を取り出した後、中に入れます。

(写真32)

注：雌熊の場合、頭骨の右側を叩き割ります。

雄熊の場合、頭骨の左側を叩き割ります。



写真32

⑦ 取り出した脳の代わりに、砕けた骨を中に入れ、さらにカムイポンペラを用いてイナウルを詰めます。残した筋にイナウルを巻き付けます。

(写真33)



写真33

⑧ 目の水晶体を取り出し、イナウルで包み、取り出した穴に詰め戻します。

舌の中から白色の筋を切り取ってイナウルで舌状に包み、筋の先と同じように口の中に戻します。

- ⑨ 最後に、頭骨の上部をイナウルで覆います。こうして飾られたイナウルを白老では、へペレコソソテ（子熊の小袖）といいます。へペレコソソテを着せることを「髪を結ってやる」、「化粧をする」という表現で言い表します。また、こうして飾り付けされた頭骨を、マラット（神の客人）と呼んでいます。（写真34）



写真34

- ⑩ ウンメムケを終えたマラットを上座に移し、カムイノミを行います。（写真35）



写真35

3 饗宴

カムイノミが終わると、カムイを旅立たせる前の最後の饗宴が催されます。ここでは前夜同様に食べ物や飲み物が振舞われ、リムセやユカラなどが披露されます。(写真36)

なお、ユカラは物語をすべて語るのではなく、物語が最高潮に達した時に語るのを止めます。そうすることにより、その物語の続きを聞きたくて、カムイが来年また人間の世界を訪れる、と考えられているからです。



写真36

4 カムイの旅立ち

饗宴の後、マラットをユクサパオニに納め、旅立ちの準備が行われます。

ユクサパオニにマラットの左右の孔をはめ込むように入れ、ユクサパオニに取り付けた横木に顎が掛かり、収まるようにします。(写真37)



写真37

ユクサパオニの左右にキケチノイエイナウをヤナギの皮で縛り付けます。着物を着せるなど、飾り付けを行います。(写真38)

注：雌熊の場合、右のキケチノイエイナウを高くします。
雄熊の場合、左のキケチノイエイナウを高くします。



写真38

飾り付けが終わると、ロルンプヤラから外に出します。その時、女性たちが、「ホイヤーホッ、ホイヤーホッ」と掛け声をかけます。

古老の一人がユクサパオニを持ち、アペオイのアペフチカムイにお辞儀をするように何度か揺らし、外では男性たちがロルンプヤラの近くでオンカミしながら待ちます。

ユクサパオニを受け取った男性はヌサの前に運び、何度か揺らしながら、正面を東（ヌサの後方）に向けてヌサの中央に立てます。同時に、若者が東の空に向けてへベレイを放ちます（写真39）。これはカムイに帰る道筋を示すとともに、その道筋を清めるためで、たくさんのお土産を持って、無事にカムイモシリに着くことを願っているのです。

女性たちは最後まで「ホイヤーホッ、ホイヤーホッ」と掛け声を続けます。



写真39

これらがすべて終わると、全員チセにもどり、再び饗宴が催され、カムイの土産—熊肉の料理が振舞われます。

VI

本祭 3 日目(あと祭り)

1 ヌサの片付け

3日目の早朝、まだうす暗いうちに若者2名がヌサに行き、オンカミして東を向いているユクサパオニを西向き（チセの方向）にします。(写真40、41)



写真40



写真41

やがて、陽が出てしばらくすると、ヌサの前にあるイヌンパニをヌサの後ろに据えるなど、男性4名がヌサの片づけをします。

チタラペに掛けてある供物はすべてロールプヤラを通して、室内へ運び入れます。(写真42)



写真42

2 シンヌラッパ（先祖供養）

イオマンテなど盛大な儀礼には付随してシンヌラッパ（先祖供養）が行われます。

まずチセで祭主がアペフチカムイに酒を捧げ「これから祖先に供物を捧げるので、無事に届くように見守ってほしい」という旨の言葉を述べます。その後屋外に移動し、ポンヌサの横にヌサをつくり（白老ではシンヌラッパヌサといいます）、シンヌラッパを行います。

シンヌラッパの目的は、先祖に食べ物や飲み物を送り届けるためだといわれています。

供物には、米、酒粕、塩、刻みタバコが必ず用意されます。また果物やお菓子なども用意されます。

ヌサの前に集まった男性たちは座って、トッキに入れた酒をイクパスイの先につけ、前方、横、後ろ、三方へ振り撒くようにして捧げます。（写真43）



写真43

女性たちも続いて、ご飯や団子、果物などをちぎって前方に撒くようにして供えます。（写真44）



写真44

シンヌラッパが終了すると、全員チセにもどり、シンヌラッパが終わったことを神々に報告するカムイノミを行い、イオマンテの儀礼がすべて終了します。

3 最後のカムイノミ

シンヌラツパが終わると、最後のカムイノミを行います。次は1990年に白老で実施されたイオマンテの時の日川善次郎翁のカムイノミです。

イレス カムイ
ネ ヒ サマ タ
チセコロカムイ
コタンコロカムイ
タネポ カネ
クイタク キ ナ
ネ ヒ アナクネ
オンネ ネ マヌ プ
クネ プ ネ クス
シラオイ コタン
ニシパ コタン
ウ シンリッ コタン
コタン オッタ
オリパク トウラ
クネ パ コロカ
クイエ パ キ ワ
ウ ペウレ クル ウタラ トウラ
ウ ネブ ネ ヤッカ
シンリッ カラ プリ
エカシ カラ プリ
アキ ア コロカ
タネ アナクネ
シサム カラ プリ
トノ カラ プリ
ユブケ クス
ウ ネブ ネ ヤッカ
オケレ パクノ

育ての神
さらにまた
家の神
村の神
今また
申し上げます。
それは
年取ったもので
私はありますので
白老の村
豊かな村
先祖の村
村において
恐れながら
ではありますが
お祈りを申し上げて
若者たちとともに
何事も
先祖の流儀
祖先の流儀で
してきたのですが
今では
シサムの流儀
和人の流儀が
やかましいので
何もかも
最後まで

アキ ソモ キ コロカ
ネ ヒ アナクネ
カムイ ウタリ
アエラムアン ナンコロ
ネ パ ネ クス
タネ オロ ワノ
ニシパ コタン
コタン コロ プリ
ウ ペウレ クル ウタラ
イキ パ クス
ウ ネプ キ ヤッカ
ピリカ ノ
ホピタ クニ
イレス カムイ
ウ パセ カムイ
ピリカ ヌカラ
アキ パ クニ
クイエ パ キ コロ
クアラパ キ ナ
(以下「節」なし)
ネン ポカイキ
タネ オロ ワノ
シラオイ コタン
ニシパ コタン
オッタ スクブ
ペウレ クル ウタリ
タネ オロ ワノ
ネプ ネ ヤッカ
キ ナンコロ クス
カムイ ウタリ
ピリカ ノ

できませんでしたが
そのところを
神々よ
御理解ください。
そこで
今から
豊かな村
村の流儀で
若い者たちが
いたしますので
何をいたしましても
無事に
終わりますように
育ての神
重き神
よくお見守り
くださいますよう
申し上げつつ
私は帰ります。

何とぞ
これから
白老の村
豊かな村
そこに育った
若者たちが
これから
どんなことでも
いたしますでしょうから
神々よ
よくよく

エプンキネ ワ
ピリカ ノ ポ
ネプ ネ ヤツカ
ホピタ クニ
アヌカラ クニ
オンネ クル ネ マヌ プ
クネ パ クス
クイタク キ ワ
クアラパ キ ナ
イレス カムイ
カムイ ウタリ
イヤイライケレ

お守りくださって
無事に
何事であれ
終えられますよう
お見守りくださるよう
年取ったもので
私はありますので
私は申し上げて
帰ります。
育ての神
神々よ
有難うございます。

おわりに

アイヌは自分たちのまわりにある役立つもの、あるいは力の及ばないものを神として敬ってきました。なかでも、熊や狐、狸、鹿といった動物神は、最も身近な存在であるとともに、最も重要な神として位置づけられていました。

狩猟でこうした動物を得た時、必ず送り儀礼を行いました。それは、狩猟小屋での簡略なものであったり、コタンに持ち帰って家族やコタンの人たちで行うなど、形や規模はさまざまです。

そうした中で、飼い熊の送り儀礼であるイオマンテは道具や料理の用意に、また儀礼そのものに時間をかけたアイヌの最大かつ最重要の儀礼です。

アイヌモシリを訪れたカムイに感謝し、その魂をカムイモシリに送り帰すとともに、家族やコタンの成員、さらには近隣のコタンの人たちが一同に会し、改めて協同の心を確認しあうという側面も持ち合わせていたのです。



参 考 文 献

イオマンテの実施にあたって、参考となる文献をいくつか紹介します。

- 犬飼哲夫・名取武光
1939：「イオマンテ（アイヌの熊祭）の文化的意義とその形式（一）」『北方文化研究報告』2
北海道大学北方文化研究室
- 1940：「イオマンテ（アイヌの熊祭）の文化的意義とその形式（二）」『北方文化研究報告』3
北海道大学北方文化研究室
- 佐藤直太郎
1961：「釧路アイヌのイオマンテ」『佐藤直太郎郷土研究論文集』釧路市
- アイヌ文化保存対策協議会編
1969：『アイヌ民族誌』下 第一法規出版
- 伊福部宗夫
1969：『沙流アイヌの熊祭』みやま書房
- 萱野茂・須藤功
1979：『写真集アイヌ—二風谷のウトムヌカラとイオマンテ—』国書刊行会
- 北海道教育庁社会教育部文化課編
1982：『昭和56年度アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査Ⅰ 旭川地方 北海道教育委員会
- 相賀徹夫編
1985：『イオマンテ—上川地方の熊送りの記録—』小学館
- 財団法人アイヌ民族博物館
1990：『イオマンテ—熊の霊送り—報告書』財団法人アイヌ民族博物館
- 1991：『イオマンテ—熊の霊送り—報告書Ⅱ』財団法人アイヌ民族博物館
- 財団法人アイヌ民族博物館監修
1993：『アイヌ文化の基礎知識』草風館
- 秋野茂樹
1998：「アイヌの『送り儀礼』に関する文献資料」『アイヌ民族博物館研究報告』6
財団法人アイヌ民族博物館
- 萱野茂
2003：『五つの心臓を持った神—アイヌの神作りと送り—』小峰書店
- 満岡伸一
2003 [1923]：『アイヌの足跡』財団法人アイヌ民族博物館

イオマンテの道具類を展示・収蔵している施設

イオマンテの道具類を展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

北海道内

- | | |
|---------------------|---------------|
| ●財団法人アイヌ民族博物館 | 白老町若草町2-3-4 |
| ●財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 | 札幌市中央区北1条西7丁目 |
| ●旭川市博物館 | 旭川市神楽3条7丁目 |
| ●網走市立郷土博物館 | 網走市桂町1-1-3 |
| ●浦河町立郷土博物館 | 浦河町字西幌別273 |
| ●帯広百年記念館 | 帯広市緑が丘2 |
| ●萱野茂二風谷アイヌ資料館 | 平取町字二風谷 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●静内町アイヌ民俗資料館 | 静内町真歌 |
| ●標津町歴史民俗資料館 | 標津町字伊茶仁278 |
| ●弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 | 弟子屈町字弟子屈276-1 |
| ●苫小牧市博物館 | 苫小牧市末広町3-9-7 |
| ●名寄市北国博物館 | 名寄市緑丘222 |
| ●函館市北方民族資料館 | 函館市末広町 |
| ●美幌博物館 | 美幌町字美禽253-4 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町字二風谷 |
| ●北海道大学植物園・博物館 | 札幌市中央区北3条西8丁目 |
| ●北海道開拓記念館 | 札幌市厚別区厚別町小野幌 |
| ●北海道立アイヌ総合センター | 札幌市中央区北2条西7丁目 |
| ●北海道立北方民族博物館 | 網走市字塩見313-1 |
| ●幕別町蝦夷文化考古館 | 幕別町千住114-1 |
| ●室蘭市民俗資料館 | 室蘭市陣屋町2-4-25 |

北海道外

- | | |
|------------------|------------------|
| ●稽古館 | 青森市大字浜田玉川207-1 |
| ●東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館 | 仙台市青葉区国見1-8-1 |
| ●東京国立博物館 | 東京都台東区上野公園13-9 |
| ●アイヌ文化交流センター | 東京都中央区八重洲2丁目4-13 |
| ●国立民族学博物館 | 吹田市千里万博公園10-1 |
| ●大阪府立近つ飛鳥博物館 | 大阪府河内郡河南町大字東山299 |
| ●大阪人権博物館 | 大阪市浪速区浪速西3-6-36 |
| ●天理大学附属天理参考館 | 天理市守目堂250 |
| ●松浦武四郎記念館 | 三重県三雲町大字小野江383 |

アイヌ生活文化再現マニュアル
イオマンテ
熊の霊送り
【儀礼編】

2005年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171 / FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

